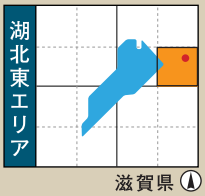
史跡
県指定

鎌刃城跡（かまはじょうあと）

米原町　平成14年3月20日指定



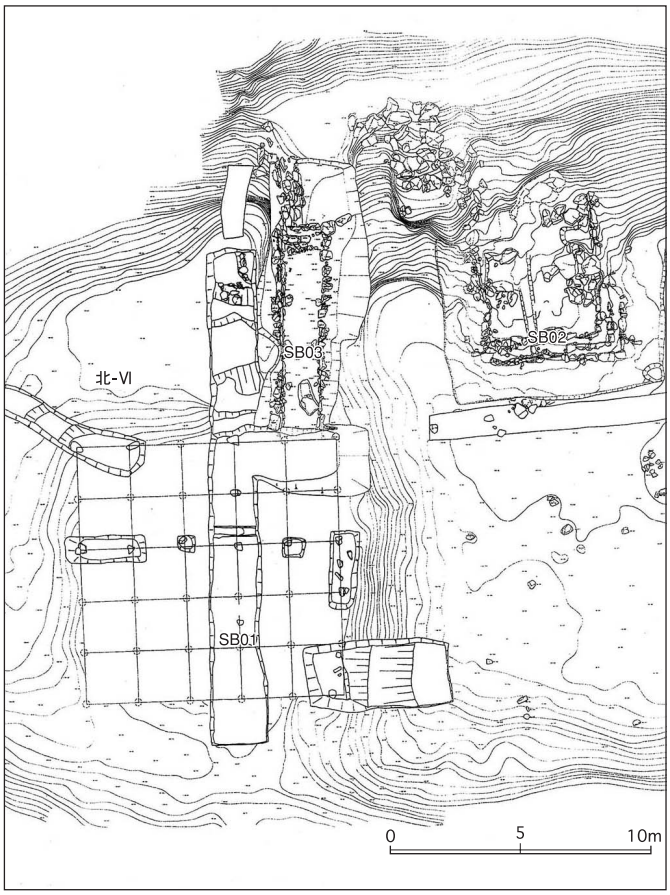
鎌刃城は、江南と江北の国境を固める典型的な境目（さかいめ）の城として築かれました。発掘調査により明らかになった城は、16世紀後半の姿ですが、石垣を多用し、城内の建物はすべて礎石を用いており、鎌刃城が安土城に先行して先進的な技術を駆使した、全国的に見ても希有な城郭であることがわかりました。

当時のできごと	
1467年 1477年	応仁の乱
1571年	比叡山焼き討ち
1573年	武田信玄没す

鎌刃城の歴史

鎌刃城の築城の年代は不明ですが、応仁の乱に際し、京極氏の家臣が、城主堀次郎左衛門を討ったとの記録が見えますから、この頃には境目の城として機能していたようです。その後、六角氏が鎌刃城を攻める記録が散見します。

城主の堀氏は、浅井氏に属しますが、織田信長に内応したため、浅井長政に攻められ、元亀元年（1570）に落城します。しかし、同年の姉川の合戦に勝利した信長は、再び堀氏を城主とします。翌年にはまたしても長政に攻められますが、木下藤吉郎の援軍により辛くも落城はまぬがれます。城主堀氏は天正2年（1574）に信長により改易され、城は信長の直轄となり、まもなく廃城となります。



北-VI郭礎石建物ＳＢ01、通路ＳＢ03　北-V郭ＳＢ02実測図

城の概要

鎌刃城は、中山道を眼下に望む標高384mの山頂にあり、城跡は東西370m、南北400mの範囲に広がります。「コ」の字状の尾根上に、主郭を中心に多数の郭を階段状に配し、尾根の先端には巨大な堀切を設け、守りを固めます。発掘調査の結果見つかった城内の建物は、全て礎石建ちで、城の主要部分を石垣で固めるという、16世紀後半に整備された城としては、先進的な築城技術が駆使されています。特に図のSB-01は、半地下式の建物で、天守の祖形とも考えられます。



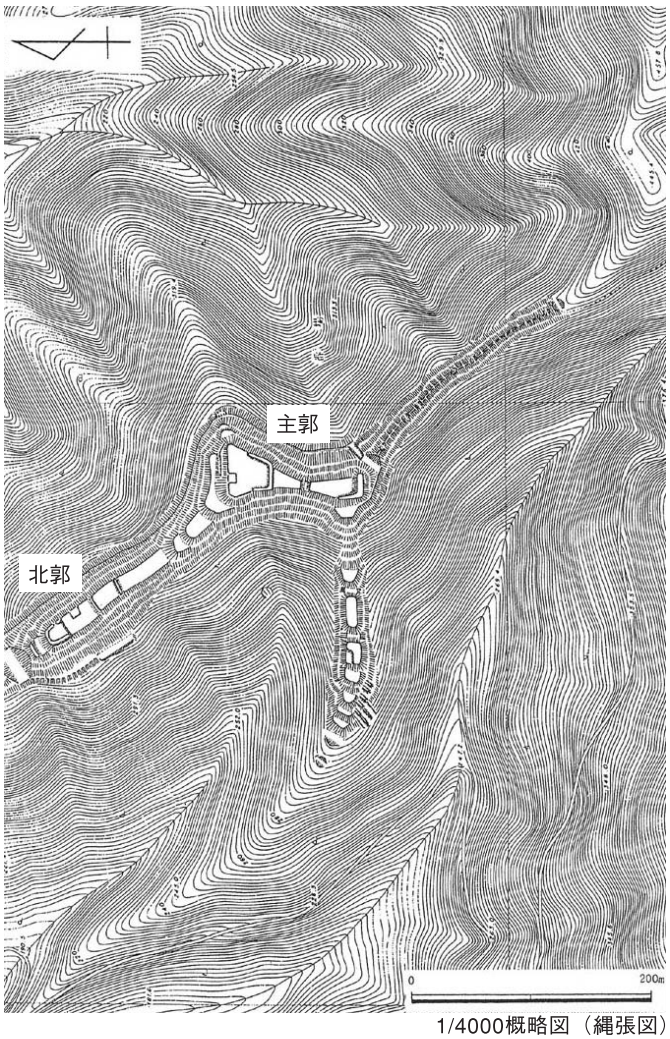
発掘調査で検出された主郭内側石垣と石段



発掘調査で検出された主郭虎口

遺構の特徴

城郭への石垣の多用や、礎石建物の近世的な築城技術は、これまで安土城の築城（天正４年〈1576〉）に始まるとされていました。しかし、発掘調査の結果、天正2年頃には廃城になったと考えられる鎌刃城が、石垣で固めた郭、枡形虎口、さらには、礎石建ちの建物群により構成されていたことが明らかになりました。これは日本の築城の技術を考える上で画期的な発見といえます。また、発見された石垣の上部は全て崩され、さらに、遺構は全て厚い土に覆われた状態で見つかりました。これは自然に崩れたものではなく、人為的に城を壊した痕跡（破城：しろわり）と考えられます。おそらく天正2年に廃城になった際に、織田信長の手により、この城が二度と機能しないように、徹底的に破壊されたものと考えられます。



1/4000概略図（縄張図）


発掘調査で検出された主郭南東隅部石垣


発掘調査で検出された主郭礎石建物

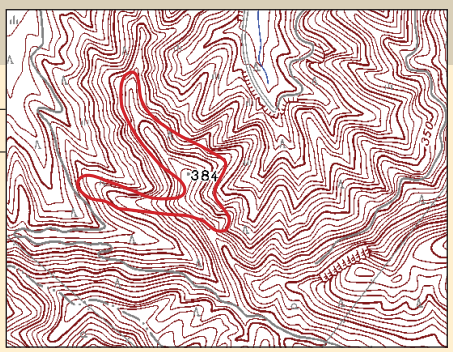
関連する文化財

佐和山城跡（彦根市）	境目の城。近江支配の要所として争奪戦が繰り広げられる。石田三成の居城でもある
太尾山城跡（米原町）	鎌刃城の支城的な城で、やはり境目の城として機能
長比城跡（山東町）	姉川の合戦に際し、浅井氏が中山道を押さえるために築いた城

もっと深く知りたい

米原町教育委員会　☎0749-52-6632　坂田郡米原町下多良3-3

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678



鎌刃城跡へのアクセス

JR琵琶湖線　米原駅下車
北陸自動車道　米原インター

【参考文献】〔鎌刃城跡発掘調査報告書〕米原町教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月